

橋からの眺望

現在の堀割川は、震災復興による当時の姿をほぼそのままの姿で今に伝えているところが魅力です。舟運を支えた運河の面影は、石積み護岸や荷揚場だけでなく、広がりのある川の風景を橋から眺めることで感じることができます。

●堀割川沿いには歩道がありません。散策の際には、交通ルールを守って歩きましょう。



根岸橋から下流を望む。



堀割川の位置

堀割川は、中村川から分派し、磯子区北部を根岸湾に向かって流れる人工の運河です。

堀割川(二級河川大岡川水系)の概要

- 八幡橋上流区間：延長約2100m、川幅約27m
- 八幡橋下流区間：延長約600m、川幅約30m～60m
- 架橋：(上流より)中村橋／天神橋／根岸橋／坂下橋／磯子橋／八幡橋
- 平成22年度土木学会選奨土木遺産*

*土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。平成22年度は、堀割川を含め、全国27カ所の構造物が「土木遺産」として認定されました。

発行：横浜市磯子区政推進課 平成23年1月発行
横浜市磯子区磯子3-5-1 電話045-750-2331 FAX 045-750-2533
制作・協力：一般社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)
協力：田中常義(堀割川魅力づくり実行委員会 事務局長)

磯子区内の歴史的建造物

明治22年(1889年)の横浜市誕生後、昭和2年(1927年)10月に中区・鶴見区・保土ヶ谷区・神奈川区とともに生まれた磯子区。市政誕生前からの歴史のなかで、磯子区内には様々な歴史的建造物が残されています。

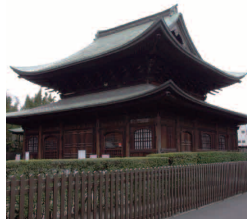
東漸寺釈迦堂

調査により正安3年の梁牌が確認されています。基壇外周と堂内柱位置の発掘調査を行い、昭和56-57年に解体復原修理工事が完成。復原後の建物は国宝円覚寺舍利殿よりも大きく、時期も古く貴重です。

所在地：磯子区杉田1-9-1

建築年代：鎌倉時代 正安3(1301)年

国重要文化財



旧東伏見邦英伯爵別邸

鉄筋コンクリート造3階・地下1階の建物は外観は和風ですが、内部は全くの洋風です。磯子の高台に建てられた戦前の横浜の別荘建築の代表として貴重な存在です。

所在地：磯子区磯子3-1

建築年代：昭和12(1937)年

市認定歴史的建造物



旧柳下家住宅

明治初期から横浜弁天町で「洋鉄・銅・丸釘」商を営んでいた柳下家の住宅として建てられました。横浜ではきわめて希少な、関東大震災前創建の近代和風住宅です。

所在地：磯子区下町10-6(根岸なつかし公園内)

建築年代：西棟・倉：大正8(1919)年、

東棟・洋館：大正13(1924)年

市指定文化財



横浜市の主な土木遺産

開港後、外国人居留地を中心に真っ先に西洋技術が導入された横浜では、近代的な都市整備が行われてきました。その後横浜は、大正12年(1923年)の関東大震災で甚大な被害を受けましたが、「震災復興」として、現在のまちの姿の礎になる多くの土木施設が整備されました。近代化の歴史を伝える土木遺産の中から一部をご紹介します。

旧横浜居留地煉瓦造下水道マンホール

明治初年のプラントン設計による陶管下水道を煉瓦造に改造した際の施設で、日本人の計画による日本最初の近代下水道遺構。管は縦0.6m・横0.4m(内径)の卵形をしています。



所在地：中区日本大通(開港広場内)

建築年代：明治14(1881)～16(1883)年

国登録文化財

浦舟水道橋

震災後、扇橋に転用、その後さらに現在地に移設されました。ピン結合プラットラス形式(明治中期に用いられた橋梁の形式)の道路橋としては現存最古。



所在地：南区浦舟町・中村町
建築年代：明治26(1893)年に旧西の橋として架橋

市認定歴史的建造物

大原隧道

震災復興の際、保土ヶ谷区の東隧道とともに、磯子・蒔田方面の配水強化をはかるために水道用として整備されました。現在はブルムナードとして利用されています。

平成18年度土木学会選奨土木遺産に認定。

所在地：南区清水ヶ丘

建築年代：昭和3(1928)年

市認定歴史的建造物



昇龍橋

東日本には石造アーチ橋の伝統はなく、横浜では、開港期の木橋から鉄橋の時代に入ったと考えられてきました。建設当初の姿をとどめている横浜最古の貴重な石橋です。

所在地：栄区長倉町

建築年代：明治中期～

大正4年以前(推定)

市認定歴史的建造物



写真提供：栄区広報相談係

旧横浜船渠第2号ドック

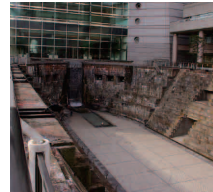
現存最古の民営石造乾船渠。ランドマークタワーの建設にあわせて保存改修を行い、「ドックヤードガーデン」として活用されています。また、2年後に完成した第1号ドックは、現在は「日本丸メモリアルパーク」となっています。

所在地：西区みなとみらい

建築年代：明治29(1896)年

国重要文化財

市認定歴史的建造物



横浜市立港中学校門柱

震災復興事業で架けられた花園橋(派大岡川)の親柱を移設しています。全体的にアールデコ調の意匠が施されており、震災復興橋梁の親柱としては最大規模。

所在地：中区山下町

建築年代：昭和3(1928)年

国登録文化財



●「横浜市の主な土木遺産」「磯子区内の歴史的建造物」は、『都市の記憶 横浜の歴史的建造物』『都市の記憶 横浜の土木遺産』(いずれも横浜市歴史的資産調査会発行)を参考としています。

ほりわりがわ 堀割川 歴史と魅力 ～土木学会選奨土木遺産～



土木遺産・堀割川

堀割川は、久良岐橋・池下橋付近で中村川と分流し、根岸湾に注ぐ延長2.7kmの人工運河です。中村川から滝頭まで堀割を開削し、掘削土で吉田新田内の沼地（現在の中区扇町・寿町あたり）を埋め立てること、加えて中村川の拡幅や滝頭波止場を建設するという大事業は明治3年（1870年）に着工、同7年（1874年）に完成し、舟運路として重要な役割を果たしていました。しかし、大正12年（1923年）9月1日の関東大震災によって、市内の運河は壊滅的な被害を受け、堀割川でも、護岸の破壊や亀裂、橋の落橋や焼失など大きな被害を受けました。その後、堀割川は、昭和初期の復興事業により、石積（松杭打コンクリート基礎、上部は割石練積）護岸で復旧されるとともに、各所に荷揚場や階段などがつくられ、架け替えられた橋には、それぞれに意匠を凝らした親柱が設置され、現在に至っています。堀割川は、震災復興期の河川改修工事の様態をほぼ全面的に残しており、市民が身近に運河の面影を感じることができる土木遺産となっています。



- 上：滝之橋。八幡橋はかつて滝之橋と呼ばれた。
- 下：明治期に桜の名所でもあった堀割川沿いの桜並木の様子。今も残る矢倉橋が対岸に見られる。

絵がき：横浜市開港資料館所蔵

運河とまちをつなぐ土木遺産 ～いまでも残る近代土木遺構～

舟運を支えた堀割川には、船から荷物を積み降ろしするための荷揚場や階段、船をつなぐための繫船柱と繫船環が規則的に配置され、運河沿いに木材業、造船所、煉瓦や染物工場などが建ち並び、運河を行き来する舟でにぎわいをみせていました。堀割川にいまでも残る近代土木遺構の主なものをご紹介します。

石積み護岸・下水吐口 [昭和初期]



震災前の堀割川は元名石積みがほとんどでしたが、震災復興時には耐震工法を採用し、石積み（割石練積擁壁）で復旧されました。アーチ型の下水吐口（天神橋上流）も、往時のデザインを見ることができます。

天神橋上流の荷揚場・石積み階段 [昭和初期]



ほとんどの荷揚場が埋められてしまったなか、石積み階段とともに、ほぼ完全な形で荷揚場が残されている貴重な土木遺構です。

天神橋・親柱



昭和2年に復旧。親柱は現存（台座のみ残る）



八幡橋・親柱



昭和3年に復旧。平成11年拡幅・耐震工事完成。親柱は現存



中村橋・親柱



大正15年に復旧。平成19年に架け替え工事竣工。親柱は当時のデザインを模して新たに築造。



根岸橋・親柱



大正15年に復旧。平成19年に架け替え工事竣工。親柱は当時のデザインを模して新たに築造。



矢倉橋とヘルム・ドック跡 [明治期]



国道16号線の磯子橋上流付近で盛り上がったところが矢倉橋です。かつてあったヘルム・ドック（造船所）へ船を通す水路にかかる橋で、今も面影が残っています。

階段護岸と繫船柱 [昭和初期]



八幡橋下流に船に乗り降りするための階段（昇降場）と船を舫う繫船柱が現存。繫船柱は花崗岩で造られており貴重な土木遺構です。

震災復興橋梁と「親柱」

横浜における震災復興橋梁は合計178橋。短期間に架設するため、橋梁形式はI形桁、プレート・ガーダー、ゲルバー桁など標準化されていましたが、橋梁の親柱には建築家の参画もあったようで、表現派風、デ・スティル派風、アールデコ風、構成主義風、古典主義風、和風等、当時流行の様々な意匠が施されていました。震災当時、堀割川に架設されていた橋は、中村橋・天神橋・根岸橋・坂下橋・八幡橋の5橋。このうち2橋（天神橋・八幡橋）で震災復興期の親柱が現存しています。

●「横浜復興誌」（横浜市）、「昭和堀割川筋護岸工事設計書」（土木局）、「帝都復興事業史土木編下巻」（復興事業局）、「横浜堀割埋立由来」（大原邦三郎編）、「都市の記憶－横浜の土木遺産」（横浜市歴史的資産調査会発行）などを参考にしています。